

## (5)海軍鎮守府開庁により築かれた歴史文化

旧海軍舞鶴鎮守府開庁を契機に造られ、日本遺産の構成文化財にもなっている赤れんが造りの舞鶴旧鎮守府倉庫施設などの建造物、JR舞鶴線の<sup>すいどう</sup>隧道(トンネル)・橋梁や国の登録有形文化財の北吸トンネルなどの官設鉄道施設、近代水道技術を導入した水道施設、海軍軍人やその家族のために整備された中・東地区の市街地などは、舞鶴の近代化を支えてきた。

これらの施設を活用して、芸術文化の拠点や「肉じゃが」をはじめとした豊かな食文化を楽しむ取り組みによって築かれた歴史文化は舞鶴の未来を照らす物語となっている。

### ストーリーを構成する主な歴史文化遺産

舞鶴赤れんがパーク1～5号棟	市道北吸・桃山線北吸トンネル	艦船名をつけた通り名
旧舞鶴鎮守府軍需部倉庫	旧北吸浄水場配水池施設	舞鶴要塞堡壘・砲台群
海上自衛隊舞鶴補給所	舞鶴市水道施設桂貯水池・岸谷貯水池	海軍割烹術参考書
JMU(株)舞鶴事業所施設	舞鶴旧鎮守府周辺の石積み護岸	海軍厨業料理教科書
東郷邸(舞鶴地方総監部会議所)	JR舞鶴線隧道・橋梁施設	肉じゃが
神崎煉瓦ホフマン式輪窯	JR小浜線松尾寺駅旧本屋	海軍カレー
旧舞鶴鎮守府乙号官舎(旧市長公舎)	京都丹後鉄道宮舞線隧道・橋梁施設	赤れんがフェスタ

## ものがたり5：海軍鎮守府開庁により築かれた歴史文化

### ○舞鶴鎮守府開庁による施設整備

日本の近代化にともない、政府は清国・ロシアを意識した軍備の増強に努め、明治22年(1889)、海軍の役所である鎮守府を舞鶴に設置することを決定した。明治34年(1901)余部下に鎮守府が開庁されたことで、舞鶴は、日本で4番目、日本海側で唯一の軍港として重要な海軍の拠点となり、軍港都市として急速な発展を遂げていった。

鎮守府では、明治26年(1893)、石炭貯蔵庫の建設を皮切りに、大正期にかけて、舞鶴海軍兵器工廠、舞鶴海軍工廠、旧舞鶴鎮守府軍需用部倉庫など旧海軍関連の施設が建てられた。

また、鎮守府が置かれることが決まると、物資輸送に必要な道路や京阪神と舞鶴を結ぶ鉄道などの交通網が整備された。明治32年(1899)京都・園部間が開通し、福知山・大阪間、福知山・新舞鶴間、園部・綾部間、小浜線、大正13年(1924)には宮津線が順次開通した。現在も、JR舞鶴線の橋梁施設やトンネルなどの鉄道施設が使用されており、近代化を進めるための礎をみることができる。

交通網の整備によって、山陰線や北陸線が結ばれ、未開通部分は海舞鶴駅から鉄道連絡船で補うことで、日本海側の交通は確保された。また、昭和元年(1926)に、ウラジオストックと舞鶴を結ぶ航路が開通したことで、人や物資が行き交う十字路の要となった。

その他、艦艇用の補給用水の確保を目的に、貯水池や浄水場などの水道施設が整備された。石張りコンクリートでつくられた堰堤は、今も静かな自然のなかで落ち着いた風景を創出している。

近代化遺産の象徴ともいえるべき「れんが」は、由良川河口にある神崎ホフマン式輪窯で製作された。天にむかって伸びる数本の煙突をもつ建物は、全国で4基のみが残る貴重なものであり、舞鶴の近代化を支えた象徴的な建物となっている。

現在、舞鶴には、赤れんがの建造物が約120件確認されており、旧海軍の主要施設などれんが造の近代化遺産が群を成して現存していることは、大変貴重なことである。こうした建造物によって、欧米の雰囲気と和の趣をあわせもつ、舞鶴市の特徴的な町並みをつくりだしている。

戦後、鎮守府や海軍工廠は解体されたが、舞鶴市では平成3年(1991)から順次、市役所に隣接する赤れんが倉庫群の活用を推進し、平成5年(1995)には赤れんが博物館、平成6年(1996)には市政記念館、平成19年(2007)にはまいづる智恵蔵、そして平成24年(2012)には赤れんがパークとして赤れんが工房(赤れんが4号棟)・赤れんがイベントホール(赤れんが5号棟)が整備され、のちに日本遺産の構成文化財となるこれらの建築物を最大限に活用し、多くの市民や観光客に利用されている。

### ○鎮守府設置にともなう市街地の形成

東地区は、かつては小さな半農半漁の村であったが、海軍の鎮守府開設にともなって、軍港都市として計画的なまちづくりがおこなわれた。

河川は流路を変え、艦艇が接岸する場所には、すべて石積みの護岸が築かれた。寺川石積護岸や榎川石積護岸など、現在も造成当時の様相をとどめている。

軍港設置にともない多くの海軍軍人と海軍関係者、その家族の移住に対応するべく、浜・余部下・余部上は新たな市街地の中心として造成されることとなった。明治36年(1903)、市街地は基盤目状に整備された。通りには軍艦の名前がつけられ、海軍との密接な関わりを色濃く残す全国でも珍しい特徴がみられる。

市街地には全国から商業者等が集まり賑わいをみせ、昭和20年(1945)の終戦まで「海軍のまち」として特異な発展をみせた。今も東地区には、かつて軍港を中核として整備された都市基盤の大半が残されており、市民生活のなかに生き続けている。

### ○海軍が生んだ食文化

舞鶴市では、海軍にちなんだ料理が開発されている。その代表料理が、「肉じゃが」である。明治34年(1901)、舞鶴鎮守府司令長官・東郷平八郎の命を受けて、ビーフシチューを日本の調味料で再現したのが肉じゃがのルーツとされており、今では家庭の味として、全国に広まっている。

また、海軍の料理教科書である『海軍厨業管理教科書』や『海軍割烹術参考書』が舞鶴の海上自衛隊第4術科学校に残されており、海軍で食されていた料理の数々を知る手がかりとなる。

他にも海軍関係として、旧海軍では長い艦上生活に曜日感覚を失わないために週末にカレーライスが出されており、現在も海上自衛隊で金曜日の昼食にカレーが食べられることから、「海軍カレー」が商品化されたほか、海軍のレシピをアレンジした「海軍ロールケーキ」なども開発され、全国にむけて発信されている。

### ○海軍鎮守府開庁により築かれた歴史文化

舞鶴は、海軍鎮守府開庁によって、海軍施設と都市インフラが整備され、軍港都市として発展を遂げた。戦後、鎮守府や海軍工廠は解体したが、海軍によって築かれた近代化の歴史や文化、地域資源等を最大限に活用する取り組みがなされており、平和産業港湾都市にふさわしいまちづくりが推し進められている。

表 3-5 主な歴史文化遺産の概要（海軍鎮守府開庁により築かれた歴史文化）

舞鶴赤れんがパーク 1～5号棟	北吸赤れんが倉庫群は舞鶴鎮守府の軍需品の保管倉庫として、大正10年(1921)までに次々と建てられた。鎮守府開庁の草創期のもは、大正時代に建てられた倉庫と比べ、外観に意匠が凝らされている。特に、舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫は、現存最古級の鉄骨造建築であり、建築技術史上高い価値がある。平成24年(2012)5月に舞鶴赤れんがパークとしてオープンした。赤れんが1号棟は舞鶴市立赤れんが博物館、2号棟は舞鶴市政記念館、3号棟はまいづる智恵蔵、4号棟は赤れんが工房、5号棟は赤れんがイベントホールとして活用されている。国指定重要文化財。
旧舞鶴鎮守府 軍需部倉庫	北吸赤れんが倉庫群は、舞鶴鎮守府の軍需品の保管倉庫として明治33年(1900)に建設に着手され、大正10年(1921)までに次々と建てられたものである。鎮守府開庁の草創期に建てられた需品庫3棟は、舞鶴海軍の需品庫として海軍鎮守府の施設構成を理解するうえで重要である。国指定重要文化財。
海上自衛隊 舞鶴補給所	明治34年(1901)に舞鶴海軍衣糧庫被服庫として、れんが造2階建の建築物が2棟建てられ、大正8年(1919)に軍需部第一需品庫、大正10年(1921)に軍需部第三被服庫が建てられた。ともにれんが造2階建である。現在は、海上自衛隊舞鶴補給所の倉庫として使用されている。
ジャパンマリン ユナイテッド(株) 舞鶴事業所施設	明治36年(1903)海軍工廠条例により、舞鶴に小型艦艇建造と水中兵器を特色とする海軍工廠が設置された。終戦後、昭和21年(1946)4月1日、海軍工廠は飯野産業株式会社舞鶴造船所として再スタートし、幾多の変遷を経て、平成25年(2013)、ジャパンマリンユナイテッド株式会社の舞鶴事業所となった。工場の敷地内には数多くの近代化遺産が残っており、いずれも工場や倉庫等として現役で使用されている。
海軍記念館 (旧海軍機関学校 大講堂)	昭和8年(1933)に旧海軍機関学校の大講堂として建築された鉄骨平屋建の建物。昭和39年(1964)5月27日に旧海軍の史実と伝統を後世に伝えるとともに、隊員の教育に資することを目的として大講堂の一部に設立されたもので、旧海軍関係の資料約200点余りが展示されている。
海上自衛隊舞鶴 地方総監部会議所 (東郷邸)	舞鶴鎮守府初代司令長官であった東郷平八郎が、明治34年(1901)10月1日の開庁以来、同36年(1903)10月19日常備艦隊司令長官になるまでの2年間を過ごした官邸であり、以来、歴代長官の官邸として終戦時まで使用された。建物は、建築面積311㎡、木造平家建で一部洋館となっている。裏庭には、長官が「一心池」と命名した心の字の形をした池がある。
神崎煉瓦 ホフマン式輪窯	明治30年(1897)、由良川右岸の西神崎に登り窯が建設され、舞鶴軍港建設に必要な煉瓦を製造し海軍に納入した。煉瓦需要の高まりによって、大正末期にホフマン窯に改造され、昭和33年(1958)まで稼働した。焼成室ごとに小煙突を11基設けているところに特徴がある。国登録有形文化財。
旧北吸浄水場 配水池施設	明治34年(1901)に、第一配水池(容量2,400㎡)、第二配水池(容量2,460㎡)が建設され、昭和39年(1964)11月に廃止されるまで65年間稼働した。配水池本体は、コンクリート造であり、西側の第一配水池の内側は石張りとなっているが、東側の第二配水池には石張りはみられない。大正15年(1926)に配水池上屋が建てられた。ともにれんが造で、屋根は鉄骨トラス組でトタン葺である。正面中央入口は、上部にアーチを施したロマネスク風のデザインになっている。国指定重要文化財。
舞鶴市水道施設 桂貯水池	明治33年(1900)、与保呂に建築される。貯水池の堰堤は石張コンクリート造で、高さ12.4m、天端幅2.2m、堰堤延長51.5m、貯水量8,000㎡の貯水池である。水門には舞鶴市出身で海軍の水路測定の先駆者である海軍中将・男爵の伊藤篤吉の「清徳霊長」の文字が刻まれている。昭和60年(1985)5月に近代水道100選に選ばれ、清浄でおいしい水の水源地となっている。国指定重要文化財。
舞鶴旧鎮守府周辺の 石積み護岸	新造の陸地と海面の境界線は、埋立て土砂の崩壊防止や艦艇の接岸のため、すべて石積み護岸を築いた。重要な箇所は丹後経ヶ岬の堅石を使用している。
JR舞鶴線隧道・ 橋梁施設	明治34年(1901)の鎮守府設置にともない、軍港建設に必要な資材運送のため、同37年(1904)10月に福知山～新舞鶴間の官設舞鶴線が完成した。また、舞鶴～海舞鶴、新舞鶴～余部間も同時に開通した。この官設舞鶴線の隧道(トンネル)・橋梁等の施設は現在も使用されている。
艦船名をつけた 通り名	新市街工事の完成にともない、明治35年(1902)11月、倉梯村大字浜を中心に新市街の通り名がつけられた。市街地は軍港都市にふさわしく軍艦の名前がつけられた。通りの名は、八重山・富士・八島・敷島・朝日・初瀬・三笠・吾妻・磐手・出雲・浪速・千早・千歳・高千穂・巖島・松島・橋立・高砂・宮古・曙・千代田・和泉・秋津洲・須磨・明石・筑波・武蔵・高雄・比叡・天竜・葛城・大和である。
肉じゃが	海軍舞鶴鎮守府初代司令長官として赴任した東郷平八郎は、料理長に、留学先の英国で食べたビーフシチューを作るように命じた。当時の舞鶴にはワインやバターなどの調味料がないため、料理長は、醤油、砂糖、胡麻油で味付けをして料理をつくった。これが肉じゃがである。栄養価も高く、艦上食(軍艦での食事)として食べられるようになり、ビタミン不足が原因で起こる脚気や壊血病から水兵を救った。 [出典：まいづる肉じゃがまつり実行委員会HP]



舞鶴赤れんがパーク



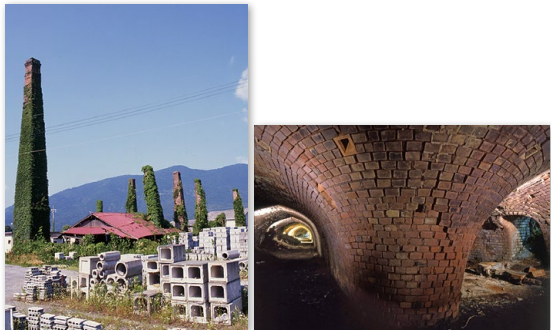
旧舞鶴鎮守府軍需部倉庫



ジャパンマリンユナイテッド(株)舞鶴事業所施設



海上自衛隊舞鶴地方総監部大講堂



神崎煉瓦ホフマン式輪窯



舞鶴旧鎮守府周辺の石積み護岸

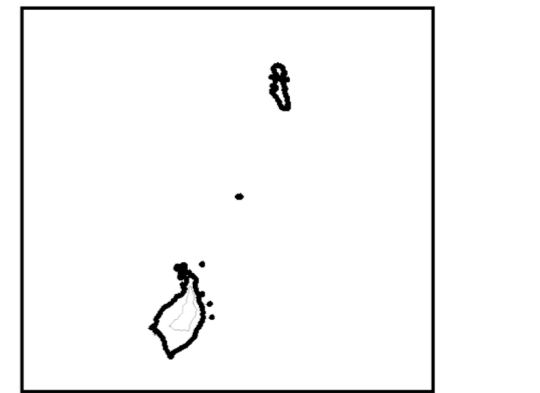
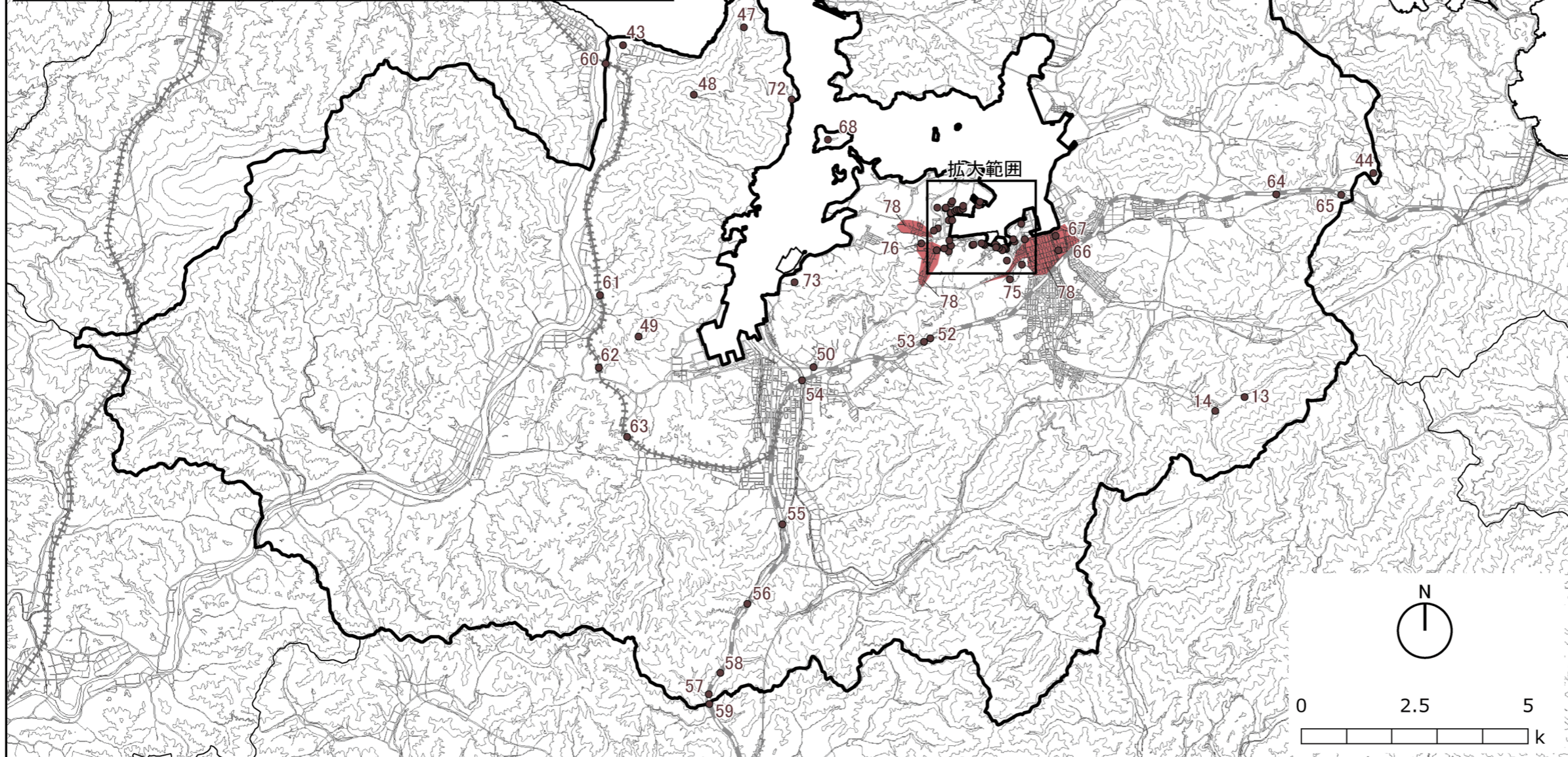
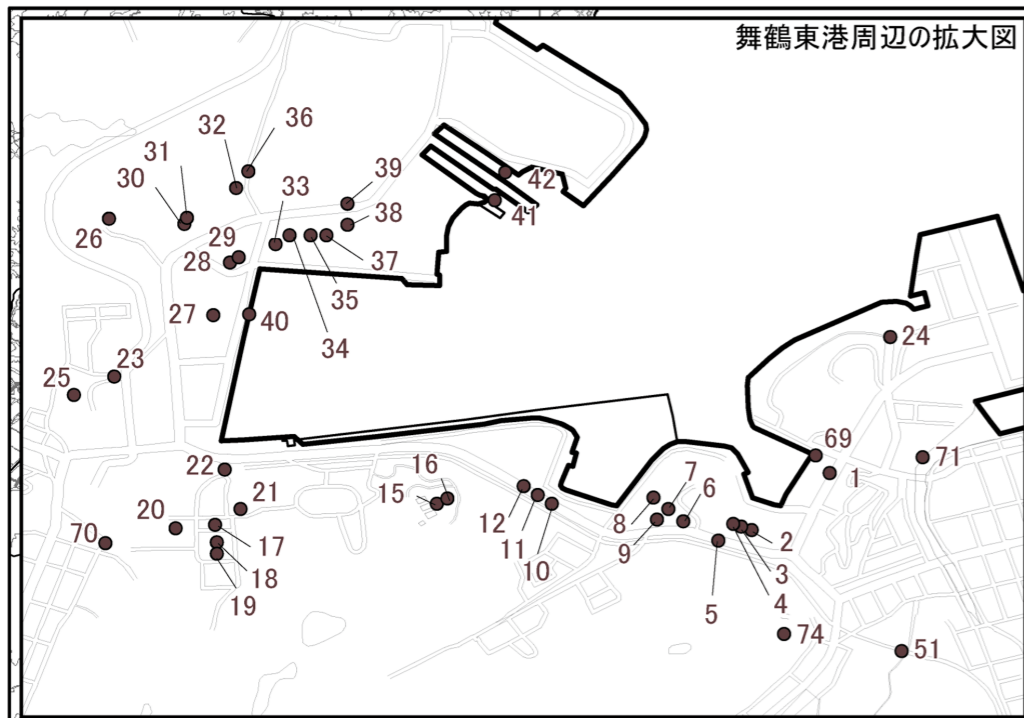


京都丹後鉄道宮舞線施設(左)・北吸トンネル(右)



艦船名をつけた通り名

図 3-16 主な歴史文化遺産（海軍鎮守府開庁により築かれた歴史文化）



番号	名称
1	舞鶴赤れんがパーク 赤れんが1号棟 (舞鶴市立赤れんが博物館)
2	舞鶴赤れんがパーク 赤れんが2号棟 (舞鶴市政記念館)
3	舞鶴赤れんがパーク 赤れんが3号棟 (まいつる智恵蔵)
4	舞鶴赤れんがパーク 赤れんが4号棟 (赤れんが工房)
5	舞鶴赤れんがパーク 赤れんが5号棟 (赤れんがイベントホール)
6	旧舞鶴海軍軍需部第二水雷庫
7	旧舞鶴海軍軍需部第一水雷庫
8	旧舞鶴海軍軍需部電機庫
9	海上自衛隊 舞鶴補給所No.17倉庫
10	海上自衛隊舞鶴補給所No.2倉庫
11	海上自衛隊 舞鶴補給所No.3倉庫
12	海上自衛隊 舞鶴補給所No.4倉庫
13	舞鶴市水道施設 桂貯水池
14	舞鶴市水道施設 岸谷貯水池
15	旧北吸浄水場第1配水池
16	旧北吸浄水場第2配水池
17	海上自衛隊舞鶴地方総監部 第一庁舎
18	海上自衛隊舞鶴地方総監部 第二庁舎
19	海上自衛隊舞鶴地方総監部 第三庁舎
20	海上自衛隊第四術科学校庁舎
21	海上自衛隊 舞鶴地方総監部大講堂・海軍記念館
22	海上自衛隊舞鶴地方総監部正門
23	海上自衛隊 余部宿舎正門
24	海上自衛隊舞鶴警備隊 正門
25	海上自衛隊舞鶴地方総監部会議所
26	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 舞鶴館
27	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 第二倉庫
28	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 第1HMW工場 第2HMW工場 (消滅)
29	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所メカトロ工場、機装工場 (消滅)
30	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所危険物屋内貯蔵庫 (消滅)
31	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所塗装器具庫 (消滅)
32	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所複写室
33	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 第三機工場
34	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 第三機工場
35	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 第二機工場
36	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 長浜トンネル
37	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 第一機工場
38	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 第4修理工場
39	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 第2電気工場
40	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 13号クレーン
41	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 2号ドック
42	ジャパンマリユニテッド㈱舞鶴事業所 3号ドック
43	神崎焼瓦ホフマン式輪窯
44	吉坂壘砲台
45	旧舞鶴要塞 浦入砲台
46	旧舞鶴要塞 葦谷砲台
47	旧舞鶴要塞 金岬砲台
48	旧舞鶴要塞 横山砲台
49	旧舞鶴要塞 建部山保壘砲台
50	日星高等学校正門
51	市道北吸・桃山線北吸トンネル
52	JR舞鶴線白鳥トンネル
53	JR舞鶴線清道トンネル
54	JR舞鶴線第六伊佐津川橋梁
55	JR舞鶴線第五伊佐津川橋梁
56	JR舞鶴線第四伊佐津川橋梁
57	JR舞鶴線第三伊佐津川橋梁
58	JR舞鶴線第二真倉トンネル
59	JR舞鶴線第一真倉トンネル
60	京都丹後鉄道宮舞線由良川橋梁
61	京都丹後鉄道宮舞線打越山トンネル
62	京都丹後鉄道宮舞線大船山トンネル
63	京都丹後鉄道宮舞線楠袴山トンネル
64	JR小浜線松尾寺駅本屋
65	JR小浜線吉坂トンネル
66	白糸神社
67	至徳寺
68	旧海軍工廠戸島大砲発射場標的
69	東地区石積護岸
70	榎川石積護岸
71	寺川石積護岸
72	白杉弾丸本庫
73	下安久弾丸本庫
74	三宅神社
75	出雲神社
76	雲門寺
77	博奕岬電灯
78	計画的軍港都市

図3-17 海軍鎮守府開庁により築かれた歴史文化

## (6) 引揚者を迎え入れた歴史文化

第2次世界大戦後、海外に残された多くの日本人が日本へ引き揚げてきた。引揚者を受け入れる港は全国にあったが、昭和20年(1945)から昭和33年(1958)までの13年間にわたり引揚者を迎え入れたのは舞鶴だけであり、大陸で苦労を重ねた同胞を温かく迎え入れ、できる限りのおもてなしをした市民の活動、引揚者の記憶やそれを示す各種資料はユネスコ世界記憶遺産(世界の記憶)に登録され、戦争の悲惨さと平和への祈りを今日に伝えている。

### ストーリーを構成する主な歴史文化遺産

舞鶴引揚記念館	引き揚げの記録
引揚記念公園	五条栈橋
平引揚栈橋(復元)	三条通

## ものがたり6：引揚者を迎え入れた歴史文化

### ○帰還の一步を記したまち、舞鶴

昭和20年(1945)8月15日、第2次世界大戦が終結した。

国内では、戦後の混乱のなか、復興にむけて歩きはじめていたが、旧満州(現中国東北部)や朝鮮半島をはじめ、海外には、多くの日本人が取り残されていた。その数、約660万人ともいわれている。

その人々を速やかに日本へ帰国させるため、引き揚げが開始された。舞鶴も引揚港のひとつとして選定され、主に旧満州や朝鮮半島、シベリアからの引揚者・復員兵を迎え入れた。

舞鶴では、昭和20年(1945)10月7日、今の韓国釜山から、陸軍兵士を乗せた最初の引揚船が入港し、昭和25年(1950)に、函館、佐世保の引揚港が受け入れを終了してからは、舞鶴だけが引揚船を受け入れる港になった。昭和33年(1958)9月、最後の船である白山丸を受け入れ、その役目を終えるまでの13年の間で、延べ346隻の引揚船を受け入れ、66万人余りの引揚者と、1万6269柱の遺骨を迎え入れた。

舞鶴西港や東港は、多くの引揚者が、夢にまでみた祖国への最初の一步を記した場所であり、五条海岸は、夫の帰りを待つ妻や子どもたちが入港してきた引揚船を見守る場所であった。引揚者を待つ家族が感激の再会をした喜びの場所であるとともに、帰らぬわが子、わが夫との再会を果たせず、はるか北方の空を仰ぎ、落胆と失望とともに「岸壁の母・妻」と呼ばれる家族が待ちわびた場所でもあった。平成6年(1994)、平引揚棧橋が復元され、忘れてはならない引き揚げの記憶を後世に継承する場となっている。

### ○引揚者へのおもてなしの心

引揚者の多くは、家財を失い、抑留生活での重労働や飢えによって、精神的、肉体的に耐えがたい苦痛を味わっていた。そのような人々の心が、少しでも癒えるように、舞鶴市民と行政が一丸となって、心に灯りがともるように、いたわりの心をもって出迎えた。

舞鶴湾内の蛇島、平引揚棧橋、三条大門角、東舞鶴駅には、帰国歓迎の看板や塔が建てられ、五条棧橋から東舞鶴駅まで続く三条通に国旗を掲げて、引揚者を温かく出迎え、故郷へと続く国鉄沿線には、労をねぎらう看板を建てて、引揚者を見送った。

引揚者が上陸する埠頭や東・西舞鶴駅などでは、空腹に耐えて帰還した人々のために、温かい湯茶、蒸かし芋、炊き出しなどをふるまい、着の身着のまま引き揚げしてきた女性には、衣料品を支給した。引揚者の一時収容所では菓子や果物をふるまったほか、入院患者には花束や果物を送り慰問をおこなった。こうした温かく出迎える市民のおもてなしの心は、辛い経験を味わった人々の心に灯りをともすものであった。引揚者からは、深い感謝の意が表わされ、感動で涙する引揚者もいたという。

### ○引き揚げの歴史を後世に伝えるために

引き揚げとシベリア抑留の歴史を後世に語り継ぐため、昭和45年(1970)、岸壁の母の舞台となった引揚棧橋を見下ろす丘陵地に引揚記念公園が整備された。公園内には、異国の地で命を落とした方々への哀悼の意を表し、世界平和を願う碑が建立されている。

「あゝ母なる国」碑は、引揚者の有志によって建てられ、引き揚げに携わった人々の愛情に感謝するとともに、今も帰らぬ同胞の望郷の御霊を慰めるものである。

「平和の群像」には、異境に倒れた御霊に対する哀悼の気持と世界平和の願いが込められている。

「異国の丘」の歌碑は、極寒のシベリアの地で遙か祖国に想いを馳せる望郷の心を表現しており、「岸壁の母」の歌碑は、わが子の帰りを信じて待ちわびた母の深い愛情と悲痛な思いを表している。

また、ソ連引揚者で組織する朔北会によって、「望郷慰霊之碑」とナホトカの方位を示す方位盤が設置されており、この地を訪れる人々の往時を偲ぶよすがとなっている。

昭和63年(1988)、その公園のなかに「舞鶴引揚記念館」が開館した。引き揚げに関わる一連の資料を展示する日本唯一の施設であり、再び繰り返してはならない引き揚げの史実を未来に伝え、「平和の尊さ、平和への祈り」を発信する施設として、その役割を果たしている。収蔵されている資料の一部は、特に希少性が高く、世界的にも重要性をもち、広く世界の人々が共有すべき資料として、平成27年(2015)10月10日、ユネスコ世界記憶遺産に登録されており、人々に平和の尊さを語り継ぐ場所として、平和への祈りを捧げる場所として今も多くの人々が訪れている。

### ○引揚者を迎え入れた歴史文化

戦後70年以上を経て、戦争を知らない世代の増加とともに引き揚げの史実は過去の出来事として、年々薄れつつある。本市の歴史文化は、引き揚げの史実を末永く後世に継承し、また平和の尊さを発信していく役割を担っているのである。

表 3-6 主な歴史文化遺産の概要（引揚者を迎え入れた歴史文化）

舞鶴引揚記念館	昭和20年(1945)第2次世界大戦後、海外に残された日本人を帰国させるために、引き揚げが開始された。舞鶴港も引揚港のひとつとしてその役割を担い、13年間、約66万人もの引揚者(主に旧満州や朝鮮半島、シベリアからの引揚者・復員兵)を迎え入れた。舞鶴引揚記念館では、引き揚げの歴史を学び、シベリアでの過酷な抑留生活の史実など後世に語り継いでいくため、1000点を超える貴重な資料を展示している。
引揚記念公園	昭和44年(1969)、舞鶴引揚援護局跡地を見下ろす丘陵地に公園が整備された。引揚栈橋を見下ろす展望広場には、戦没者への弔意と世界の恒久平和を訴える「平和の群像」や、当地と深い関わりのある「異国の丘」「岸壁の母」の歌詞を刻んだ歌碑などが建てられている。
平引揚栈橋 (復元)	引揚者は、舞鶴湾口に近い大丹生沖の検疫錨地で船上検疫後、引揚船からはしけ(小舟)に乗り換えて平栈橋に上陸し、祖国への第一歩を記した場所である。平成6年(1994)、舞鶴引揚記念館の「屋外資料」として、長さ15m、幅4mの平引揚浅橋が復元されている。
引き揚げの記録	舞鶴引揚記念館に収蔵するシベリア抑留と引き揚げ関係資料「舞鶴への生還 1945-1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」が、平成27年(2015)10月10日にユネスコ世界記憶遺産に登録された。
五条栈橋	引揚救護局からの引揚者着船場であった。引揚者の帰郷の際は、この場所で舞鶴市民による湯茶の接待と歓送がおこなわれ、歓迎のための国旗が掲げられた。
三条通	昭和20年(1945)第2次世界大戦後、引揚者は舞鶴港に上陸し、故郷へ帰るために東舞鶴駅へとむかった。その道筋であった三条通には、帰国歓迎の看板が建てられ、国旗が掲げられた。
西港(第2埠頭)	舞鶴への最初の引揚船雲仙丸は、昭和20年(1945)10月7日に西港へ入港した。以降、引揚船は昭和21年(1946)7月までは西港に入港し、同年12月末にソ連からの引き揚げが開始されてからは東港へ移った。西港では吉田沖の検疫錨地で船上検疫ののち、第2埠頭に接岸・上陸した。





舞鶴引揚記念館



舞鶴引揚記念館(展示室)



平和の群像：引揚記念公園



平和を象徴するカリヨン：引揚記念公園



平引揚棧橋(復元)



棧橋のそばに建てられた歓迎塔



引揚船を迎える舞鶴市民



引き揚げの記憶：白樺日誌・千人針

図 3-18 主な歴史文化遺産 (引揚者を迎え入れた歴史文化)

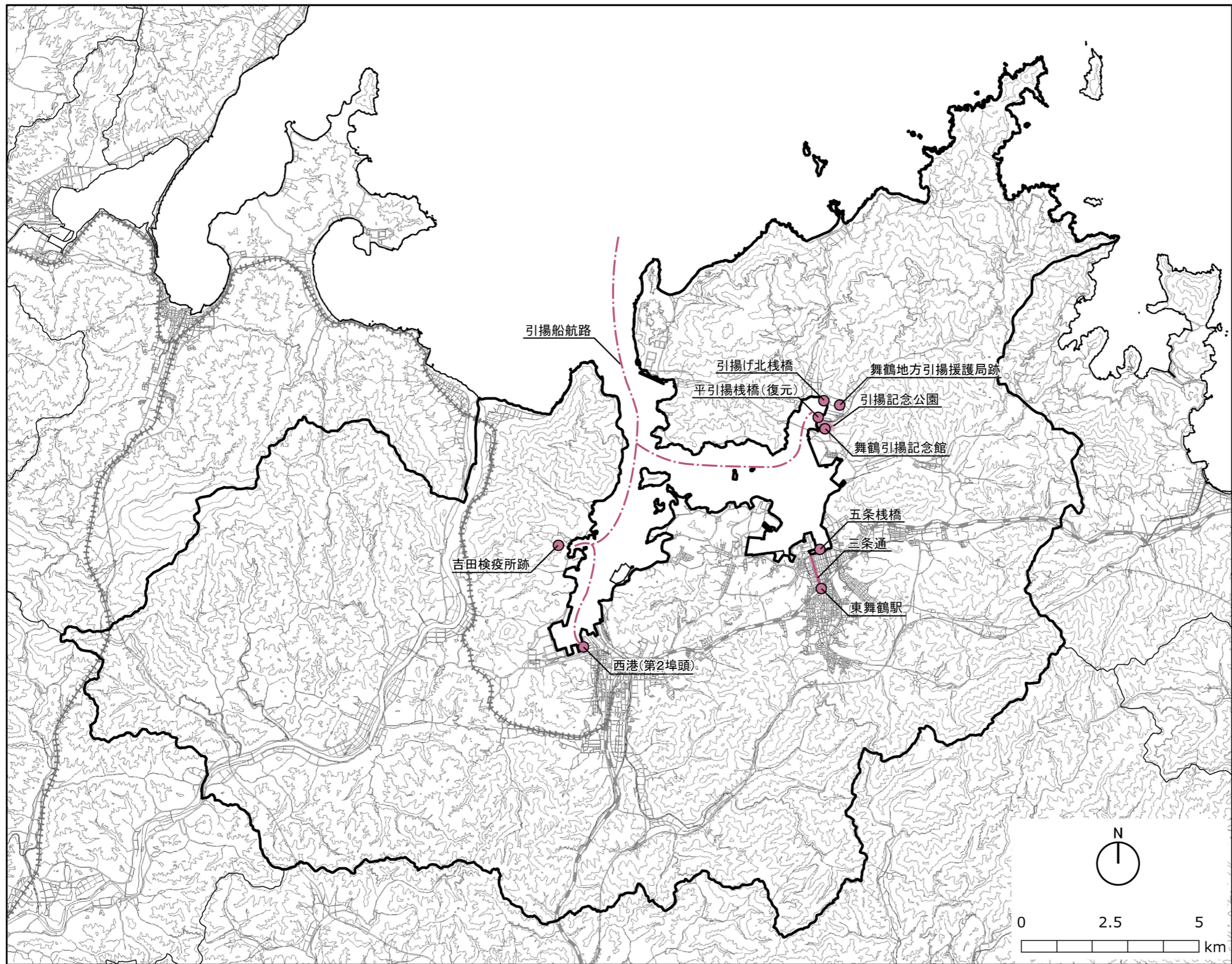


図3-19 引揚者を迎え入れた歴史文化